

語彙力、表現力を付けさせる授業づくり

～ 同じ言語材料に触れさせる回数を多くするための工夫 ～

外国語班 平山 圭一(高等学校教諭)

自己課題設定理由

・日本人にとって**英語は外国語!**(第二言語ではない!)



・実生活では**使わなくても構わない!!**



・学校で**できるだけ英語に触れさせなければ!!!**

つまり、**アウトプットのためには十分なインプットが必要**

自己課題解決策

・同じ英語を何回も読んだり書いたりさせるだけでは、**生徒は飽きてしまう!**



・いろいろなやり方で**多くの英語に触れさせる!!**



そこで、**「読む」、「聞く」、「書く」、「話す」指導を多様にする**

実践概要

<授業の流れ>

内容把握、4技能の総合的な活用を取り入れた授業を組み立てた。

①単語確認及び話す活動 → ②内容把握(読む活動) → ③読む活動
→ ④聞く活動 → ⑤書く活動

※ ②～④では教科書の英文と同じ文を、⑤は教科書の英文とほぼ同じ文を使って、英語に触れる機会を多くした。

<読む活動の具体例>

1 Repeating 2 Individual Reading 3 Pair Reading 4 Information Gap活動 5 Overlapping

<書く活動の具体例>

本文の内容に関連した文章(英語と日本語)を用意し、日本語訳と英語訳をさせる。

(例) ・ We were the tallest birds in the world. (日本語訳)

・ トキは日本で最も美しい鳥でした。(英語訳)

成果と課題

教師にとって: 授業目標の焦点化ができた (+)

思考的活動が少なくなってしまった (-)

生徒にとって: 授業への集中度が増した (+)

コミュニケーション活動まで高められなかった (-)